

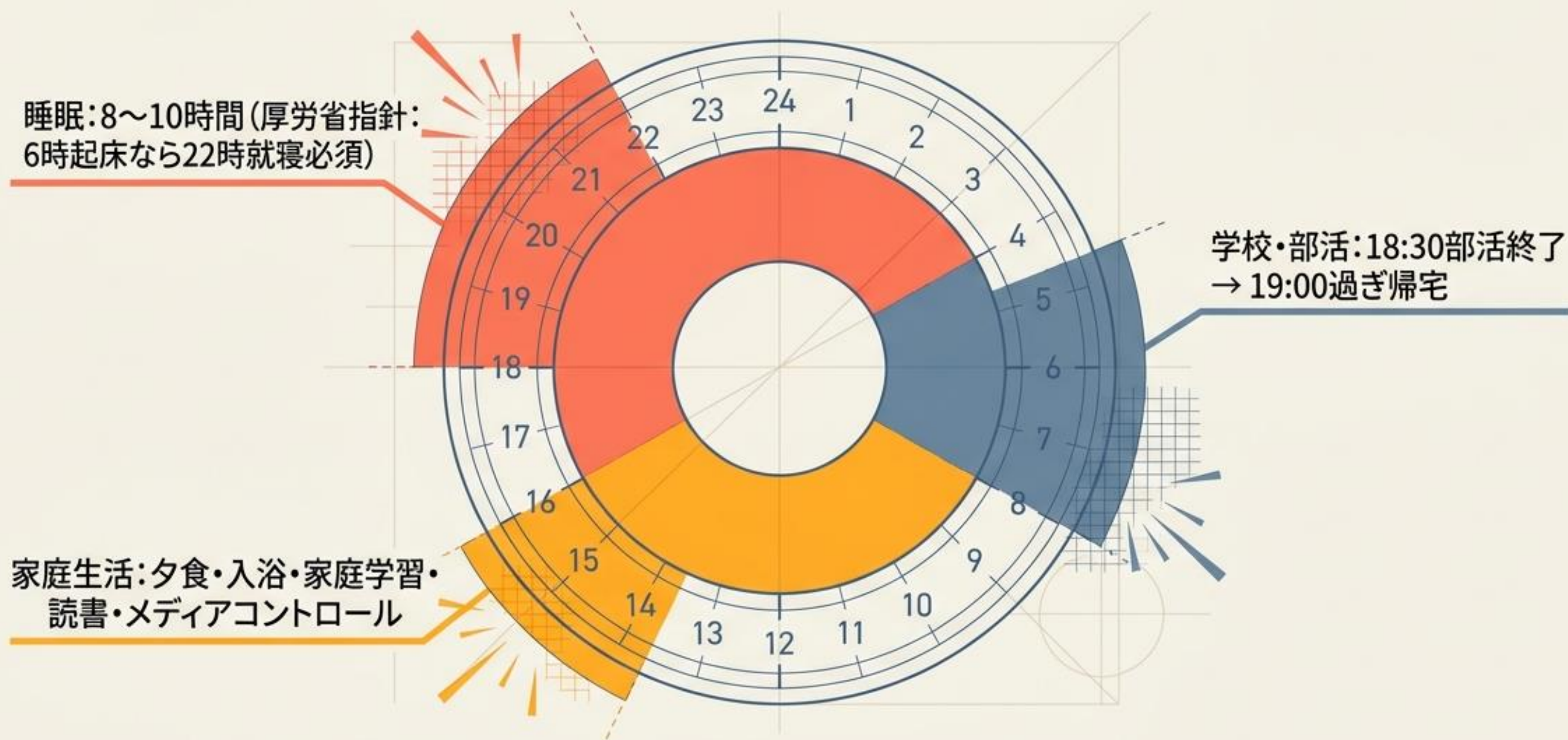
時間の再構築ブループリント： 教育課程柔軟化サキドリ研究

「教師も生徒もウェルビーイング」を実現する、
新しい学校のランドデザイン

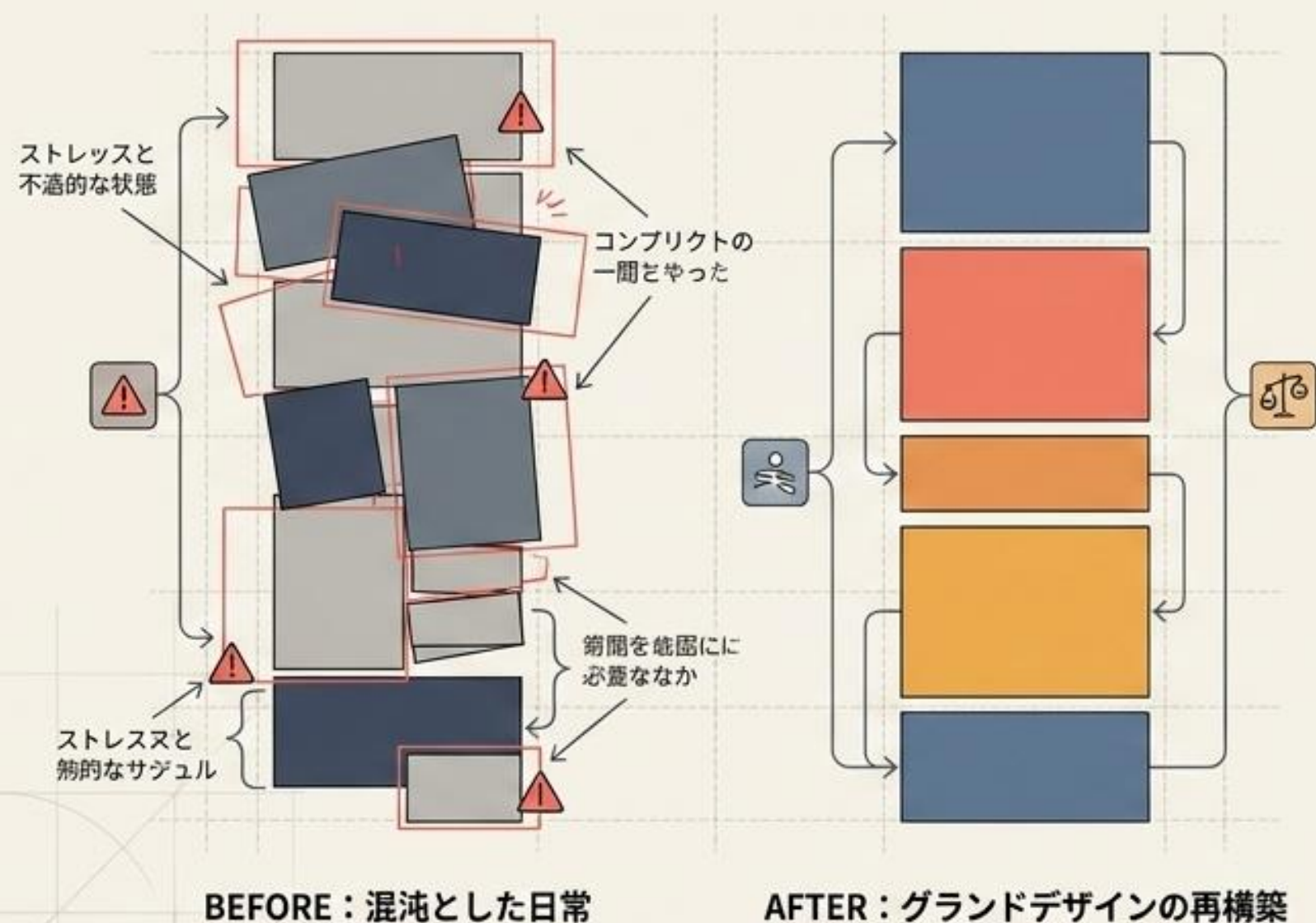
諫早市立真城中学校
令和8年5月

24時間の枠に収まらない現実。

子どもたちの望ましい生活習慣(睡眠・学習・食事)を保障するためには、現在のタイムスケジュールのままでは物理的に不可能です。



1日の「ランドデザイン」を 根本から描き直す



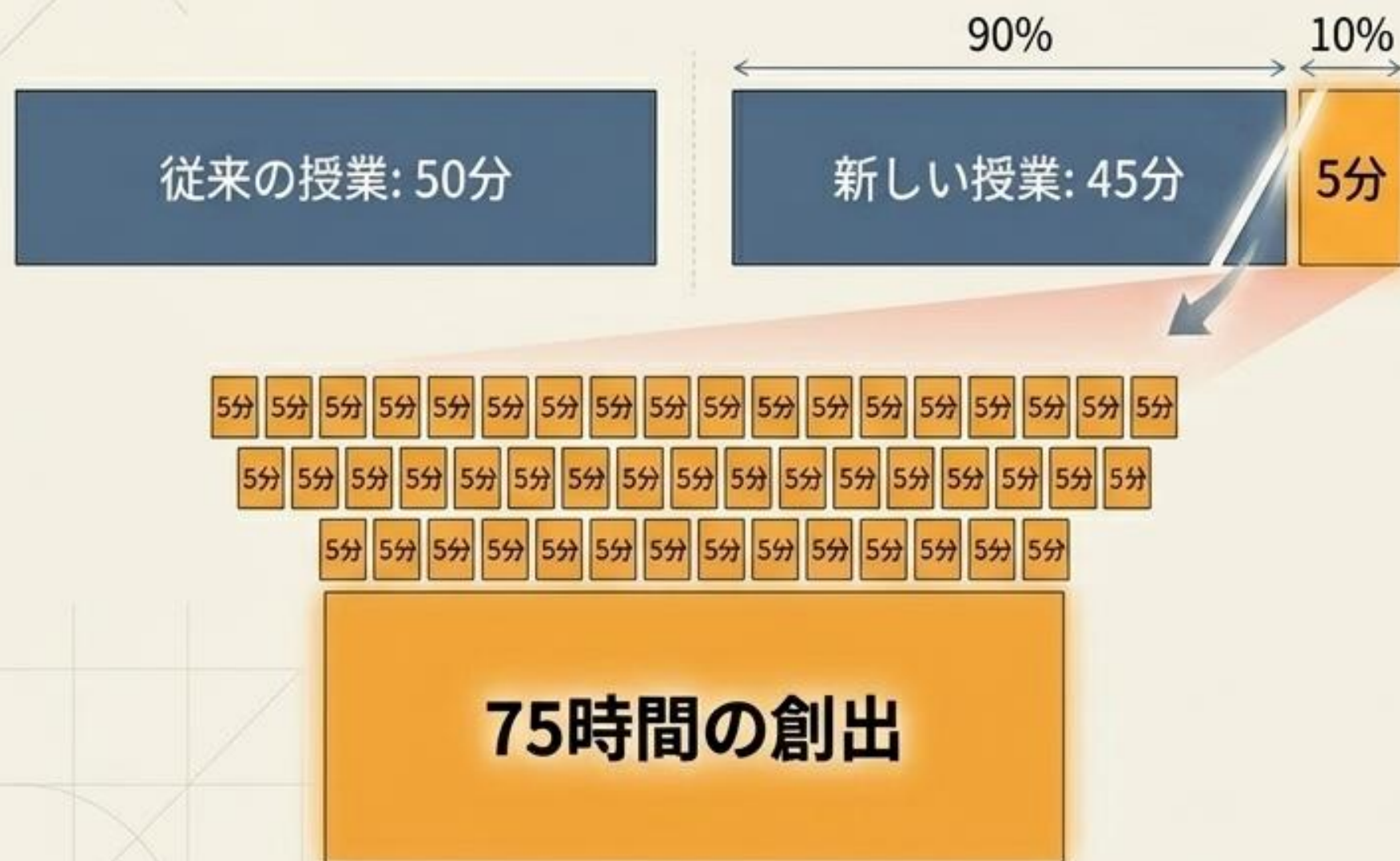
1. **現状の打破：**
既存の学校の日課、授業時数・
時間を積極的に見直す。

2. **サキドリ研究の活用：**
「教育課程柔軟化サキドリ研
究」をツールとして導入。

3. **総合的な環境再構築：**
家庭の協力を得て、子どもを育
む環境全体を最適化する。

目的は「時間の削減」ではなく、「必要不可欠な時間の適切な保障」。

約10%のタイムシフト：75時間を「再配分」するメカニズム



対象教科：

国・社・数・理・英・保体の6教科。

変更点：

単位時間を「50分」から「45分」へ短縮。

創出時間：

各教科から時数を減じ、計「75時間」の新たなリソースを創出。

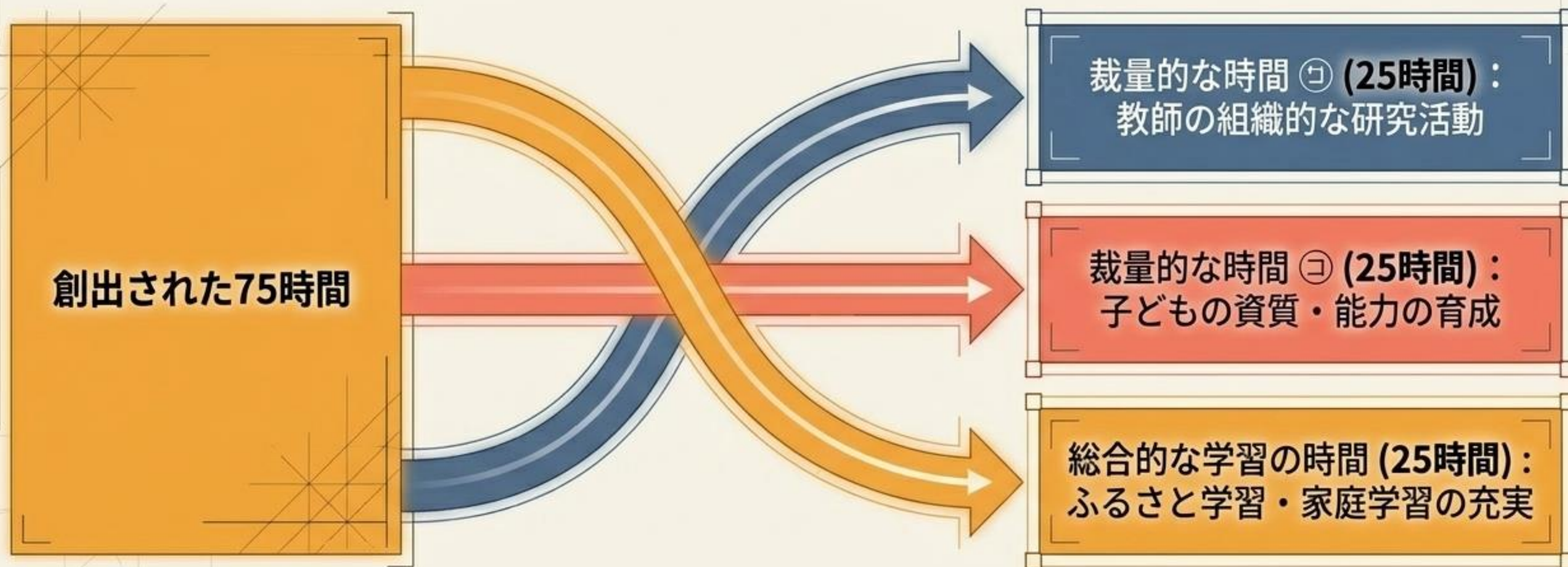
時数（コマ数）は以前とほぼ同じ。変更したのは「時間の長さ」のみ。

学習の質を落とさない「5分間」の補填戦略



- 文科省・武藤初等中等教育局教育課程課長の講話「生成AI時代、GIGAスクール時代の学習指導要領改訂の方向性」に基づくアプローチ。
- デジタルによる授業運営の効率化により、5分の短縮分は十分に取り返し可能。
- ※減じることができない教科については、実質的に授業時数が約10%増加するメリットも。

時間の再投資ポートフォリオ：75時間の行方

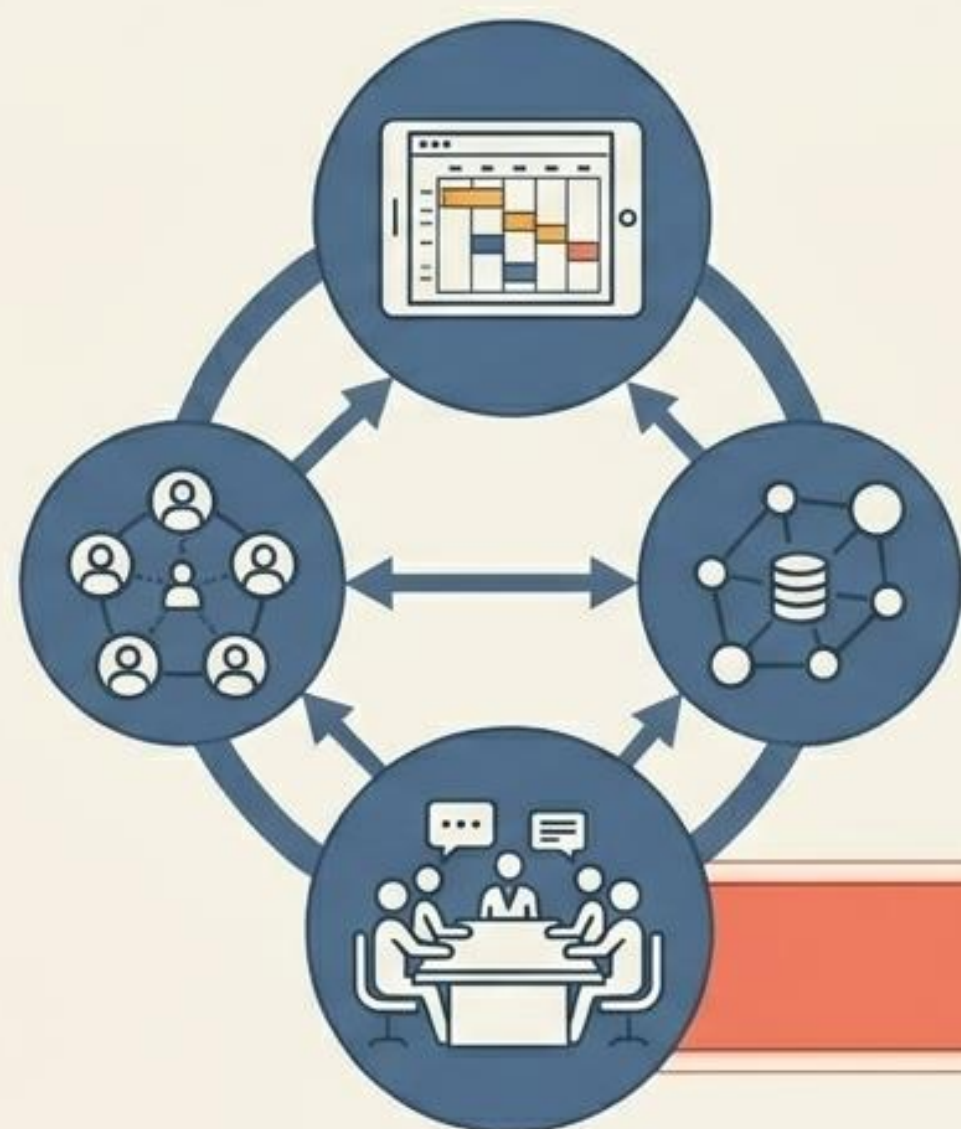


削減された時間は、教師の協働と生徒の直接的な学びに100%再投資される。

裁量的な時間 ㉓：紙面共有から「組織的協働」へ (25h)

従来の紙面共有・孤立した作業

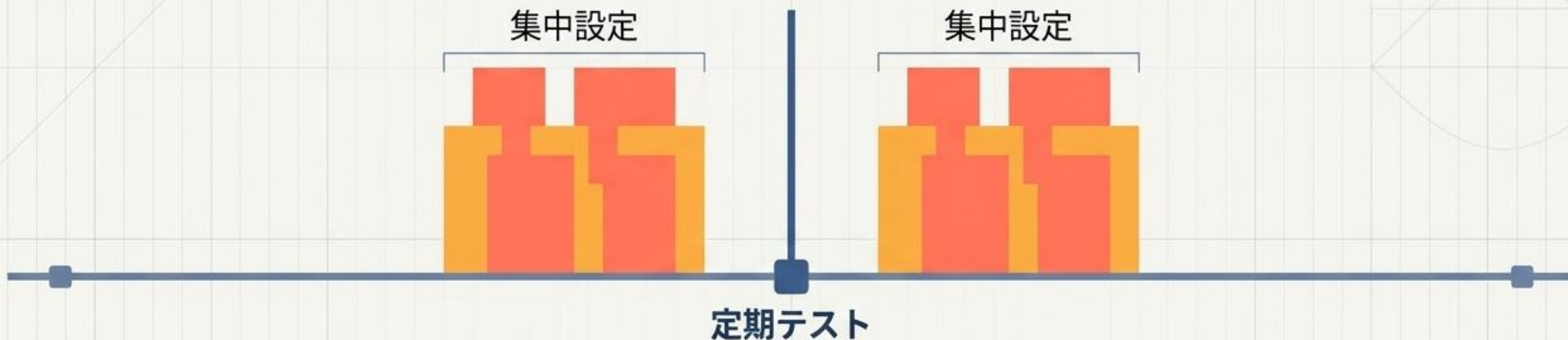
週1コマの確保：組織的協働



▪ 時間割への位置づけ：
週1コマを全職員の研究・
情報共有枠として確保。

- 主な活動内容：
- 多様な生徒への生徒指導・支援方針の全職員共有。
 - 個別の教育支援計画の作成と読み合わせ。
 - 市教委連携による授業支援ソフト（市全体導入）
生徒への還元

裁量的な時間 ㊦：学びに向けた意識を研ぎ澄ます (25h)



戦略的配置

毎週分散させるのではなく、学期ごとの「一定期間」にまとめて時間を設定。

テスト前後への投資

従来は教科外で行っていたテスト準備や振り返りを、専用の時間として確保。

次年度への目標

単なる反省ではなく、重要視される「試験の振り返り」の具体的・効果的な方策を見出す。

総合的な学習の時間：地域と家庭への広がり（25h）



【ふるさと学習の充実】

11時間

- 各学年で10時間を計画的に活用。
- 地域への理解と愛着を深める実践的な探究活動。



【子どもの学びの充実】

14時間

- 家庭学習の習慣化に向けた対策。
- 学校外での自律的な学習スキルを育成。

最終目標：「再現性の高い、汎用性のある先行事例」の創出



- 非常にシンプルな計画によるサキドリ研究の実践。
- まだ多くの学校が描けていない「柔軟な教育課程」の具体的なイメージを形にする。
- 制度説明だけでは得られない「実践的なノウハウ」を蓄積。

次期学習指導要領の移行期間において、どの学校でも「すぐに取り入れることができる」実践モデルを目指す。

現場のリアル：失われた「5分」の重みと覚悟

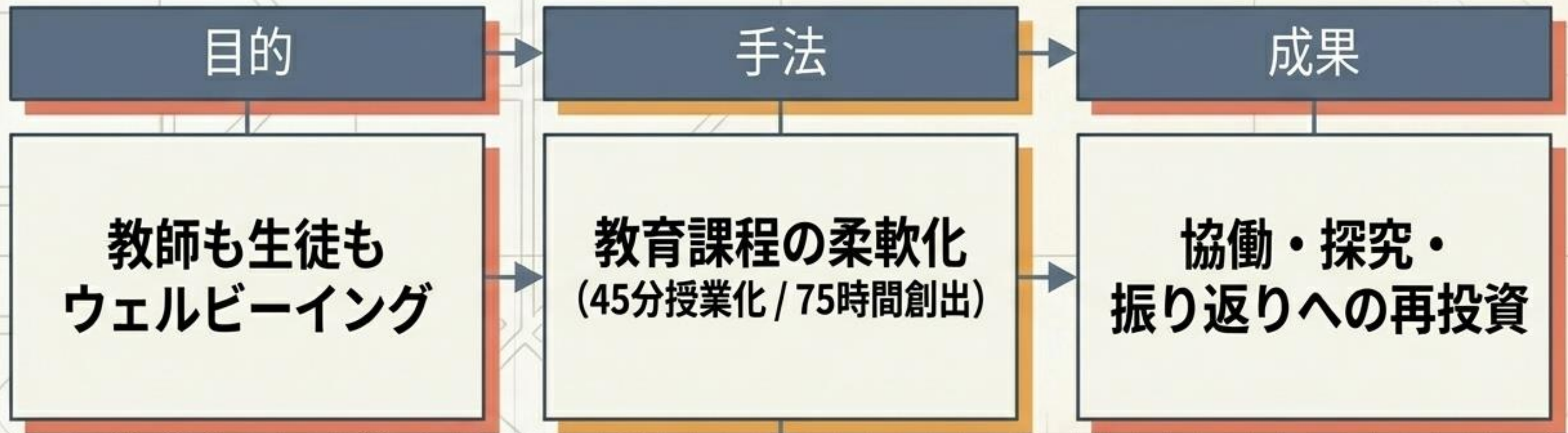
“

「校長先生、授業が5分短くなったのはとてもきついです！」
「5分の短縮は甘くないです！」

”

- 新年度開始後、授業時間が短縮されて「喜ぶ職員は一人もいなかった」。
- むしろ、5分の重要性を痛感し、研究の意義を理解して真剣に前へ進もうとしている。
- この「きつさ」こそが、本質的な教育改革に向き合っている何よりの証拠。

まとめ：時間革命が生み出す新しい学校の形



物理的な「時間の壁」を越え、子どもたちの健やかな成長と、教師の専門性が最大限に発揮される環境へ。真城中学校からの挑戦。